

2006 人権啓発・教育 コーディネーター 養成講座

を

7月から12月まで開催します。

多様化する現代社会において人と人とのつながりは希薄化にむかい、いま地域コミュニティが崩壊してきているように思います。この影響は、子どもたちの教育や育ち、高齢者の暮らしにも大きく影響するとともに、個人が抱えるストレス、不安感の増大から生まれる人権軽視など、犯罪にも大きく結びつくような意識にも影響があると思います。

これからの社会実現のためには“人と人”とのつながりが重要なキーワードです。

人権啓発をはじめ、コミュニティの再生やさまざまな場所での人づくり、まちづくりなど、人と人とを結びつける、コーディネートする役割を担うのがコーディネーター。

今回の講座は、コーディネーターのスキルアップのみならず、参加者同士のネットワーク作りを目指します。「こんなことでできないかな?」「まちをこうしたい。」といろいろな思いとともに、日常的な啓発活動の中での悩みなどを語り合いながら、みんなで共に考え、共に学ぶ場になればと考えます。

人権が大切にされた人権文化の創造をめざし、県とNPOが協働し「2006人権啓発・教育コーディネーター養成講座」を開催します。

奈良県・NPO「ほっとねっと」

「2006人権啓発・教育コーディネーター養成講座」は県とNPOとの協働事業です ※1

— 「ボランティア・NPO活動推進基金」活用事業 —

※ 詳細・申込については”ほっとねっと”までご連絡ください。

● 前期：『人権啓発・教育コーディネーター養成講座』【PM1:30～PM4:30】

日にち	テーマ（内容）	講師	会場
7/13（木）	「人権のコミュニティーワーカーになろう」	森良 伸 Eco-コミュニティープロジェクト	奈良県立総合教育センター
7/20（木）	「若者にもっと元気になってもらいたい！」	森田 俊彦 A ワークショップ 佐藤 透 自然環境講座 NOLIA	奈良県立総合教育センター
7/27（木）	「答えはすべて現場にある」	ちよん せいこ 共生コミュニティAP/PI/CI/CA	奈良県立総合教育センター
8/17（木）	「地域がわかる 地域がかわる！」	池田 真由美 自然環境講座 NOLIA	奈良県立総合教育センター
8/24（木）	「地域就労支援事業とコーディネーターの役割」	富田 一幸 大阪府地域就労支援センター	奈良県立総合教育センター

● 後期：『参加型人権学習ファシリテーター養成講座』【AM10:00～PM4:30】

日にち	テーマ（内容）	講師	会場
10/14（土）	「のびやかに自分になる」	伊勢 達郎 自然スクールTREC	奈良県立総合教育センター
10/21（土）	「ワークショップで感じる・考える」	栗本 敦子 Facilitator's Lab	奈良県立総合教育センター
11/11（土）	「参加型学習の手法と効用」	岩山 仁 グローバルコミュニケーション	奈良県立総合教育センター
11/25（土）	「自分さがしとカウンセリング」	水野 阿修羅 メンズサポートグループ	奈良県立総合教育センター
12/9（土）	「新しい人権論」	伊田 広行 立命館大学法学部	奈良県立総合教育センター

● 『養成講座宿泊研修』

日にち	テーマ（内容）	講師	会場
12/22（金） 12/23（土）	「ぶらっと・無駄話の効用」	白井 俊一 (社) 環境教育・人権教育	奈良県立総合教育センター

□ 全日程参加者には講座終了証を発行致します。

※上記タイトルについてはすべて（仮）タイトルです。あらかじめご了承下さい。

※講座はすべて奈良県内で行ないます。（場所が未定の講座につきましては、会場が決まり次第お知らせいたします。）

● 定員

各回 40人（先着順）

各講座とも定員になり次第、申込を切りらせていただきます。

準備の関係も御座いますので、実施日の10日前までに入会を済ませていただきます。

● 対象

□ 奈良県に在住の方、または、職場をお持ちの方。特に以下の方々。

- ◆ 県市町村人権啓発・教育担当者／社会教育担当者／隣保館等コミュニティーセンター職員
- ◆ 学校教育関係者および保育関係者／企業内人権啓発・教育担当者／自治会等地域コミュニティ関係者
- ◆ 人権啓発・教育をすすめようとする方。また人権相談など、実際に活動をおこなっている方。
- ◆ コーディネーターおよびファシリテーターに関心があり、やりたいて思っている方。スタッフアップの方。

● 参加資料代

..... 4,000円/人（全講座参加＜前後移動して移動費＞）
..... 500円/人（1講座参加）

※養成講座宿泊研修は別途 10,000円/人（資料代・宿泊費など）

（宿泊研修については1日（12/22）のみ参加費がかかります。）

問い合わせ・申し込み

NPO「ほっとねっと」

〒630-8133 奈良市大安寺 1-23-1 奈良県県政センター2F

TEL 0742-64-0015 FAX 0742-64-1640

URL <http://www.bllnara.jp/hotnet/top.html>

※1 「県とNPOとの協働」とは「県とNPOとが、相互の存在意識・特性等を認識し尊重し合い、等しい立場で、対等の立場で、共通する社会目標の実現に向け、社会サービスの提供等の活動をする事」とを意味します。

人権のコミュニティ・ワーカーになろう

NPO法人 エコ・コミュニケーションセンター (ECOM) 森 良

1. 市民社会形成のビジョン

2. 開く鍵はコミュニティ※の再生にある

※コミュニティ：地域の中の人と人のつながり。コミュニティを基盤として様々な活動を組織が生まれる。

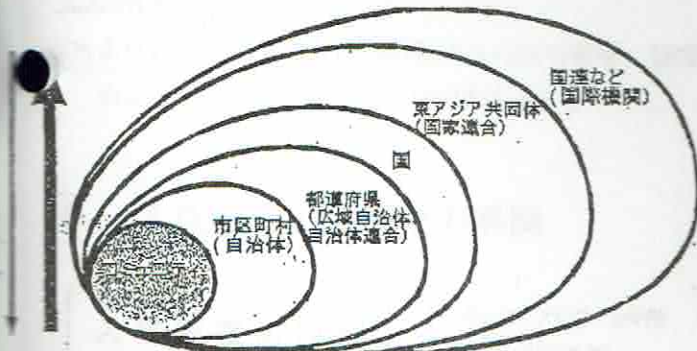
・コミュニティこそがあらゆる社会の問題、グローバルな課題を解決する源

- 「入会」：資源の共同管理のしくみ
- 「結」：共同労働、相互扶助のしくみ
- 「講」：お金を融通しあうしくみ

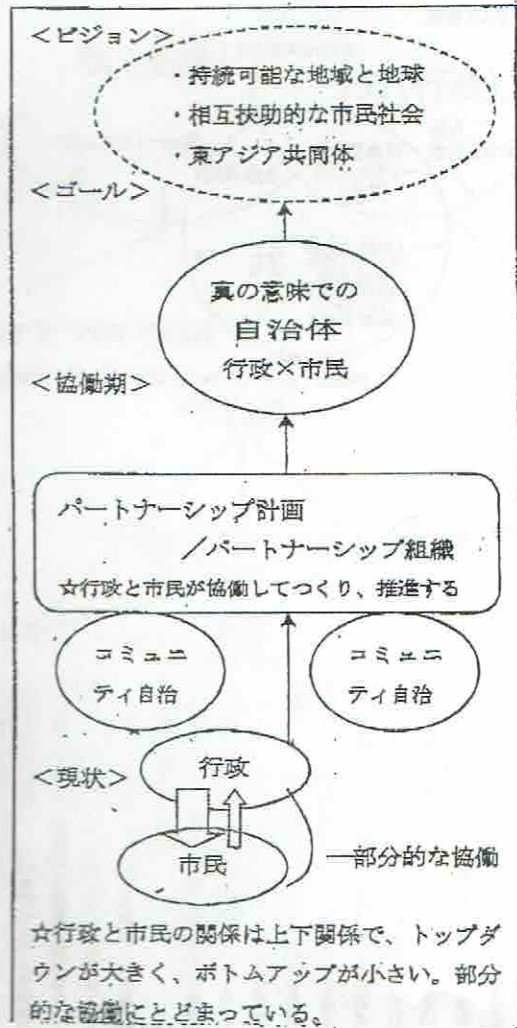
・現状は関係不全症候群—いいことやってる人はいっぱいいるんだけどみんなバラバラ！ 家族や近隣の間関係も希薄、断絶

▷コミュニティ再生の課題

- ①コミュニティ・エンパワーメント（一人一人の市民や団体のエンパワーメントを通して地域の自己決定の力をつける）
→地域から新しい学びと参加のしくみをつくる
- ②パートナーシップのコーディネート（市民・行政・企業の3つのセクターをコミュニティで束ねる）
- ③社会サービスの需給コーディネート（コミュニティで必要とされるサービスの需要を明確にし、供給のしくみをつくる）



「市民がつくる公共」の考え方① 自律・補完制の原理

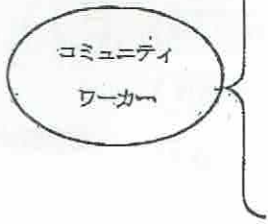


3. だれがどうやる？—コミュニティワーカーの出番だ！

子どもや市民の学びや社会参加を推進するとともに、学びに参加に高め、市民が主役となった社会の変革をおし進めるコミュニティワーカーを育てる。



- <コミュニティワーカーの仕事>
- ①学びと参加のファシリテーター
 - ②新しい仕組みやプロジェクトのプロデューサー
 - ③パートナーシップのコーディネーター



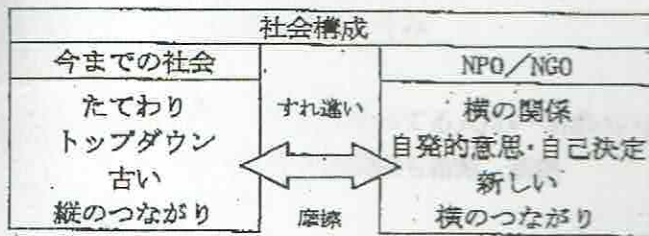
ファシリテーター：一人ひとりの持っている経験や知恵、気づきを引出し、市民参加のプロセスを促進する。社会のお産婆さん。

コーディネーター：地域社会の中の異なる立場の人を対等にしてつなぐ役割。お互いの特性を理解し、出合わせ、通訳をし、社会のビジョンに沿って調整してゆく。社会のお仲人さん。

プロデューサー：3つのP(プラン、プログラム、プロジェクト)を住民が企画・制作・演出するのを手助けする役割。社会のデザイナー。

④ コーディネーターのしごと

- ① 地域の実態を捉え、人や情報をつなぎ、公・共・私3つのセクターの関係を対等に位置づける
- ② 学びと社会参加をつなぐ
 - 個のエンパワーメントを社会的共同学習※やソフトのまちづくりに高め、つないでいく
- ③ 新たな社会的価値を生み出す
 - 社会における「すれ違い」と「摩擦」を意識化し、それを埋め、解きほぐしていくために、新しい手段や方法を提示していく。
 - 参加民主主義という思想の実践としての参加型学習ワークショップ



- ④ 協働事業をコーディネートし市民的公共を実現する
 - ・プログラムのブラッシュアップや担当課とのラウンドテーブルの設定
 - ・コミュニティファンドと公開コンペ、事業評価
- ★大切にすべきこととしてはいけなないこと
- 地域、社会に対して見通しを持つこと、その上で個人（個々の団体）の活動を見直すこと
- 共有すること
- × よけいなことはしない（行動するのは当事者、当事者ができること、すべきことはやってはならない）

5. 人権教育の地域での展開

人権教育の原則

1996.11 「アジア・太平洋人権教育国際会議」
×

コミュニティ・エンパワーメントの具体的展開

＜方法＞	＜戦略＞
コミュニティ教育の創造	コミュニティ自治の再生
新しいコミュニティ組織をつくる	自治体を強くする
NPOとVのネットワークをつくる	日本の市民社会化
計画・政策を市民参加でつくる	東アジア共同の家 (AU)
計画・政策の推進のためのパートナーシップ組織をつくる	

イマジネーションは知識よりも重要である

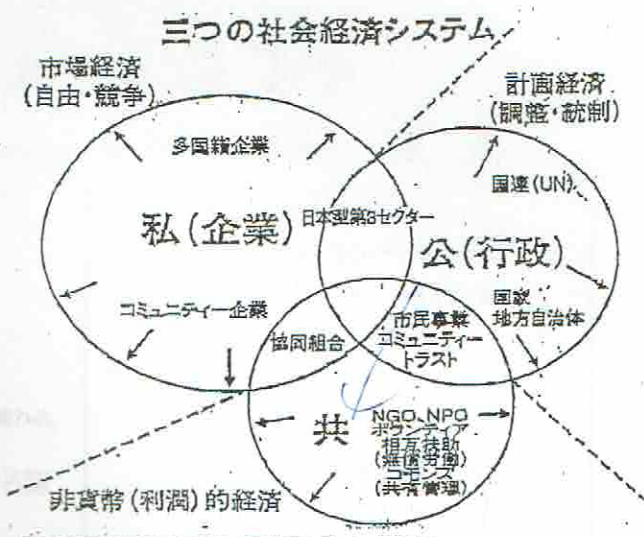
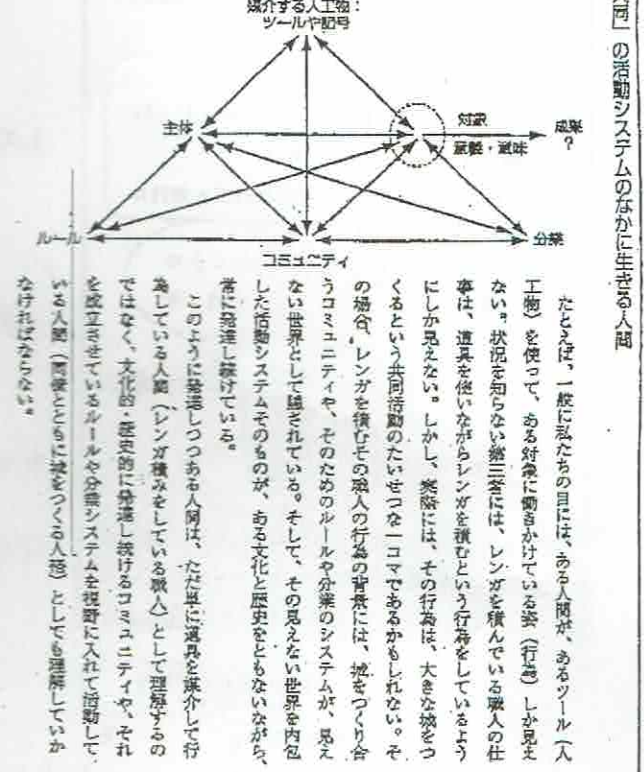


図1 活動システムのモデル (エンゲストローム: 1996年)



「共同」の活動システムのなかに生きる人間

人と人、人と自然、まちとむら、南と北の豊かなコミュニケーションを

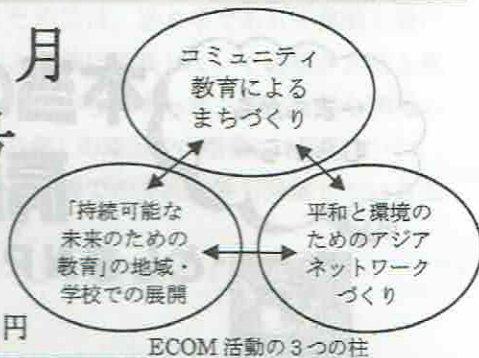
ECOM

エコ・コミュニケーション

2006年4月
第21号

『水土里の森』
通算129号

隔月刊・1部400円



たすけあう市民社会 ① 市民活動発展の課題

浸透型 プログラムへ

● **パッションから
ミッションへ**

**地域に広がる活動
手を取り合う活動へ**

市民自治体のための
協働

新たな自治的
コミュニティの形成

個々のNPOの飛躍

企業

行政

地縁組織

中間支援

サ
ポ
ー
ト

サ
ポ
ー
ト

拠 点

コミュニティ
ワーカーズ
ネットワーク

縁側カウンセラー
ファシリテーター
コーディネイター

本号は、「市民活動発展の課題」特集

- 2~3面 まちから むらから (豊島/埼玉/板橋)
- 4~5面 パッションからミッションへ 木村 松夫
- 6~7面 中間支援のための拠点づくり 藤井 亘
- 8~9面 新しいコミュニティづくりのしくみ 森 良

次号は (2006.05号)
参加型開発が地球を救う

特集



～まちから
むらから～

本当の中間支援活動とは？

豊島

肩肘張らない活動支援

—としまNPO推進協議会 18年度の事業計画について—



としま NPO 推進協議会 会長 柳田 好史

昨年度は組織立上げ1年目ということもあり、内部組織固めを中心として「中間支援組織としてのあるべき姿」を模索し続けて参りましたが、我々が目指す「中間支援」というテーマは非常に難しく、また一般の方々の理解や認知を得るのも困難なテーマであることを実体験を持って改めて知らされました。昨年一年間の経験を生かし、本年度活動計画としては以下3点をポイント（活動の柱）として掲げております。

①集いの場づくり

②NPO、社会貢献活動家への具体的活動支援策の強化



③内部組織の強化と事務局体制の確立

これら本年度の三本柱を

達成するための具体的活動として

- ・ 区民活動センター（本年度開設）への積極的支援

- ・ 当会主催各種セミナー、シンポジウム等を通じた知識情報としての活動支援
- ・ 当会活動内容等に関する情報発信、広報活動の強化
- ・ 事務局員の増員と役割分担の明確化を積極的に取り組んで参ります。

また、これら活動企画に対して会員の方々の意見を十分に反映させ、会員自ら積極的に参加していただく意味も含めて、6月4日にロングラン・ミーティングを開催します。当日は、午後から夕方に掛け、半日を費やしワークショップ(ws)を開催し、積極的な意見交換を行った上で最終事業計画決定することとしております。既に本年度の一步を踏みだしました。どうぞ、読者の皆さまも積極的に我々の活動にご参加下さいますようお願いいたします。

URL:http://www.geocities.jp/toshima_npo/

今後の予定

6月4日(日) ロングランミーティング

お問合せは としま NPO 推進協議会事務局

E-Mail: toshima-npo@ikebukuro-net.jp

埼玉

「ツーリズム立県！埼玉」

—さいたまツーリズム協議会の動き—



埼玉ツーリズム協議会 事務局長 中村 博行

埼玉ツーリズム協議会は、「グリーンツーリズム立県埼玉！」を目指し、埼玉県を中心とした周辺地域の豊かな自然の農山村でのグリーンツーリズム・エコツーリズムを通じて地域再生を実現し、都市と農山村が共存しながら、こども・若者から熟年まで多様な世代が協働し元気で活力ある暮らしのできる社会創りを目的

としています。

今年2月21日に NPO 認証手続き済みで早ければこの4月中に認証される見通しです。現在、埼玉県平成18年度NPO協働提案推薦事業（テーマ提案：「農山村の魅力」資源の再発掘及びグリーン・ツーリズムの新たなビジネスモデルづくりについて）へ応募書類

の最終チェックをしています。

埼玉県は豊かな自然を保有しながら、都市型ライフ



スタイルの県になっており、県民がそのすばらしさにあまり気づかれていません。ツーリズム

を推進していくためには、送り手である首都圏と受け手である農山村とが共に成長していく必要があると思います。2005年から始まった「持続可能な開発のための教育の10年」の埼玉での活動にも貢献すべく、今後埼玉県内や首都圏での交流会等も開催していきたいと考えています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

URL:<http://saitama-tourism.net>

あなたのみどりの手を—武蔵野台地崖線のみどりの保全に向けて—

板橋



みどりの手 事務局 芦澤 弘子

板橋区内を東西に横切る武蔵野崖線台地には、まだ多くのみど



りが残されています。今では、なかなか見ることのできなくなった野草たちがこの春もきれいな花を咲かせています。

しかし、最近ではこの崖線にも開発の波が押し寄せてきており、まもられてきたみどりのネットワークも分断し始めています。

そこで、このみどりの保全に向けて3年をかけて崖線のみどりの現状を把握し、保全の計画をつくり、保全を担う人を育てたい、という思いから、2005年10月、いたばし総合ボランティア市民活動センター主催で「いたばし環境ボランティア養成講座」をスタートさせました。

第I期(2005年10月～11月)では、まず木に親しんでもらおうと、木で縁台やイスをつくったり、1日林業体験、草刈り、森の散策など、楽しく自然と向き合える企画を設けました。そして、第II期(2005年12月～3月)では赤塚・大門・成増台地にてやや本格的な林の

観察を相場芳徳先生(東京農工大学名誉教授)を招き、月に1度のペースで開催しました。先生の解説はわかりやすいうえ、笑いながら楽しく観察ができ、更には崖線の林の様々な問題点にも気づき、とても意味のある勉強会を開くことができました。

II期を終えた時点で、トータルで20名程の方々に参加していただきましたが、保全活動の担い手をつくる組織としてはまだまだ未定形な活動であります。

そこで、活動目的達成に向けて、事務局機能をもった活動団体をつくらうということで、2006年4月、環境ボランティアグループ「みどりの手」が誕生しました。

4月からは、林の温度調査や、照度調査など、保全計画作成に向けてのより細かい観察を始めていく予定です。また、参加者の興味・関心に応える楽しい企画も考えています。

あなたのみどりの手を！是非、ご参加下さい。

今後の予定

5月7日(日) 新緑の崖線たんけん&

農家訪問

6月11日(日) 中台サンシティに行ってみよう

7月2日(日) 都立城北公園に行ってみよう

お問合せは みどりの手事務局

TEL:03-5957-1301

パッションからミッションへ

—都市における自然保護活動の新展開の模索

東京都板橋区・北区 地域活動家
木村 松夫



■ 都会に残る武蔵野の面影

東京都板橋区には区を東西に約 7.5 km にわたって武蔵野台地の崖線が横切っている。とくに、台地の西側、徳丸から大門・赤塚のあたりは、ごく最近まで武蔵野の典型的風景である農家と屋敷林、畑が広がっていた。荒川に面する崖線の北向き斜面の落葉樹林には、カタクリと並んでスプリング・エフェメラル(春のはかないものたち)の代表的な種とされるニリンソウの自生地が約 200m にわたって広がっているほか、たくさんの野草が共存して自生している貴重な自然地がある。

この地域に武蔵野の景観が残されてきたのは、東京都の北の外れで 1955 年頃に始まった日本の高度経済成長から取り残されてきたことと、北向きの急勾配の崖線が都市開発を阻んできたからなのであるが、それでも、この 10 数年間は開発の波が怒涛のように押し寄せてきている。

■ 保護活動の成果と限界

武蔵野の歴史的景観と貴重な自然を守ろうと、1978 年には「いたばし自然観察会」がスタート、1982 年には「区の花ニリンソウを保存する会」がニリンソウ自生地の保護活動を開始した。いずれも市民の自主的なボランティア活動として続けられてきた。

その活動のおかげで、自生地は整備され、管理者である東京都も市民による保護活動の存在意義を認めるにいたってきたが、その限界も明らかになってきた。

活動が社会的な広がりを持たないのである。「都会に残された自然を守る」ということでは異議をとねえる人はほとんどいないにもかかわらず、活動の中心的な担い手はこの 20 数年間変わらずにきた。定例の観察会や林の手入れ活動には新しい参加者もやっては来るのだが、定着しない。

その一方で、武蔵野台地全体にわたって開発による破壊が加速度的に進行し、残っている林も放置し

たままに遷移と荒廃が進んできている。手入れ活動を行っている林でさえ、落葉樹木の高齢化が進み、このままの状態では先が見えてきている。活動はその状況に追いつけないままなのである。

わたしは 1980 年代中頃からこの活動に参加するかたわら、隣接する北区の社会福祉協議会で地域福祉の担い手をつくる地域活動推進の仕事をしてきたのだが、地域福祉の分野でも、古くからのボランティア活動団体に同じようなことがいえる。

つまり、活動の担い手はいずれも意欲ある人々なのであるが、趣味的なサークル活動にとどまっていた新しい状況に対応していけない、社会的な広がりをもてない状況に直面しているということである。

■ パッションだけの活動が行きつくもの

趣味的なサークル活動であっても、それは人々の営みであって、けっして無意味なものではない。

ボランティア活動とは、そもそもその担い手の活動への意欲や情熱(パッション)が原点にあるはずだから、否定するべきものではない。自然保護活動でも、地域福祉活動でも、担い手たちは異口同音に「好きだからやっている」、「自分の心が豊かになるから、活動への意欲がわいてくる」と語るのは、だから、ものごとの始めとしてはそれでよいと思う。

とはいえ、パッションだけに支えられた活動とはつまるところ、その担い手自身が自分のために行う自己実現活動でしかないのである。

たとえば、自然保護活動の分野では 1 年間の四季の活動サイクルが終わると、違うフィールドに活動を移してしまう人がいるが、これでは物見遊山の見物人の域を出ない。自然保護を目的とした活動の担い手とは到底言い得ない。同じフィールドで粘り強い活動を続けていても、自然に触れることが自らの喜びや楽しみ、つまり自分の生活の質を高める以上に意義を見つけれないならば、活動目的実現のために一歩踏み込んだ事業を進めるとか、仲間を増や

していく努力をする必要がなくなるのだから、同好の士の集まりにとどまってしまう。

他方、活動にかかわることによって知識欲求が満たされることに満足するだけなら、その専門性による閉鎖的な集団を形成することになり、考え方や方法が異なる人たちや活動に対して排他的な振る舞いをとることにもなってしまう。

いずれにしても、多くの人々の共感をうむ活動にはならないし、社会に対して責任を負い、持続する活動にはなりえない。

■ 社会が必要とするもの、人々のニーズに応える活動が求められている

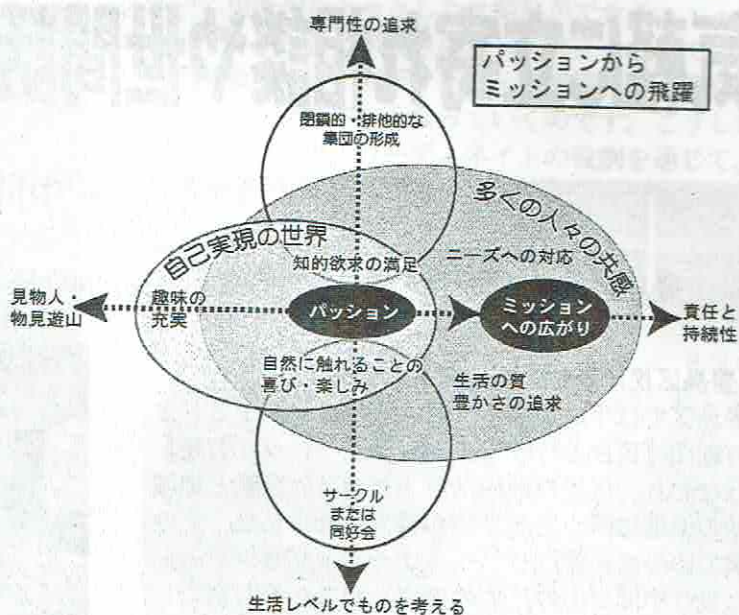
わたしたちが目指したボランティア活動とは、もともとそのようなものだったのだろうか？ 否、自分が求めるものではなくて社会が必要とするもの、人々が求めるものに、自分の自発的な意思で応える活動を目指してきたのではないだろうか。

つまり、社会的な役割（ミッション）をどのようにして見つけ出すのが、これからの自然保護活動に問われているように思う。

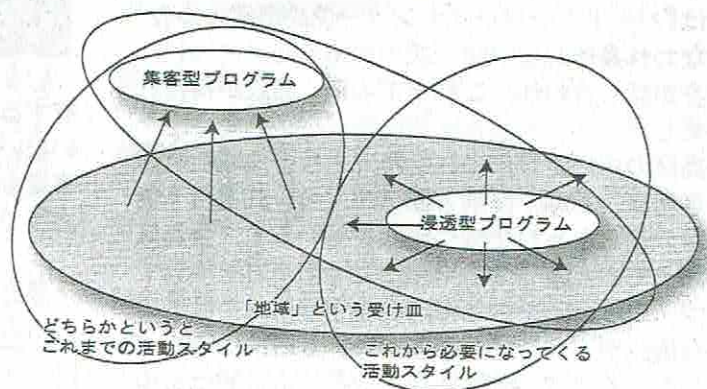
わたしは、2005年の秋から武蔵野台地の崖線のみどりを保全するための市民による計画づくりと、保全活動の担い手をつくる活動「みどりの手」を新たにスタートさせたが、ミッションが必要だというのは言うてしまえば当たり前のことで、すごく簡単に思えるけれど実際にはとても難しい。

たとえば、最近、企業の社会貢献活動の中に掲げられるようになってきた環境保護活動の具体的なものは社員が地域清掃をボランティアで行うというようなものだが、これは見事に社会的な役割（ミッション）を持つのにに対して、崖線のみどりは「あったほうが良いけれど、どうしてもなければならぬもの」とは人々に意識されていないのが現実である。

崖線のみどりを保全するために、どんな活動をするのがミッションを果たすことになるのか、そのプログラムの組み立てを「地域浸透型」に、そして



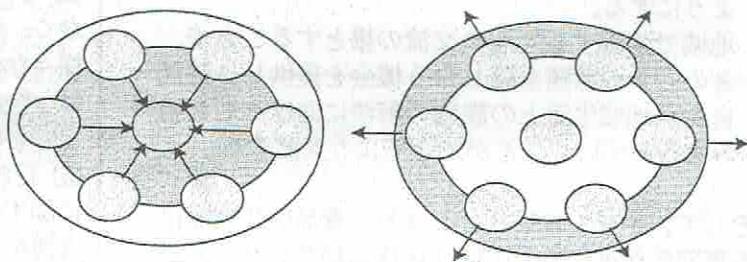
開放型プログラムの勧め



地域に広がる活動、手を取り合う活動のすすめ

活動が内側に向けた集団
= 結束は固いが、外に向かっては壁をつくってしまいがち

活動が外側に向けた集団
= グループの壁が破られるので、外側から見ると入り込みやすい



「手を取り合う活動」のあり方を探りながら、新しい活動を模索していきたい。

お知らせ
 6月10日 13:30~16:30 板橋区立グリーンホール
 “いたばし総合ボランティアセンター”
 開設記念の集い
 ~広げよう！ボランティアの輪 つなげよう！地域へ、世界へ~
 問合せ先：いたばし総合ボランティアセンター
 TEL: 03-5944-4601

気軽に立寄り相談や世間話ができるところに

— 中間支援のための拠点づくり

豊島区区民活動センター運営協議会会長／NPO 法人クローバー理事長 藤井 亘

■「豊島区民活動センター」開設の経緯

豊島区では平成13年7月～平成14年12月までの期間『区民と行政とのパートナーシップ会議』が行なわれ、区民の地域活動と行政との協働と地域活動の促進に関するあり方が検討されました。その会議での最終提言は『パートナーシップセンター』（つまり中間支援のための拠点）が主たる内容でした。

その後、平成15年3月～平成15年7月までの間では『パートナーシップセンター開設準備委員会』が行なわれ具体的な中間支援のための拠点についての中身が話し合われ、これまでの間、開設が待たれていました。

豊島区の中で話し合われた拠点とは、地域活動団体の事務所としての役割と団体相互の交流場所や情報発信の役割をあわせ持つ施設を言います。豊島区のこれまでの会議では、地域活動のあり方を検討する中で、地域活動をさらに活発化するためにはこのような施設がどうしても必要だという結論に達していました。そして、活動拠点を設置する目的は次の2つが挙げられました。

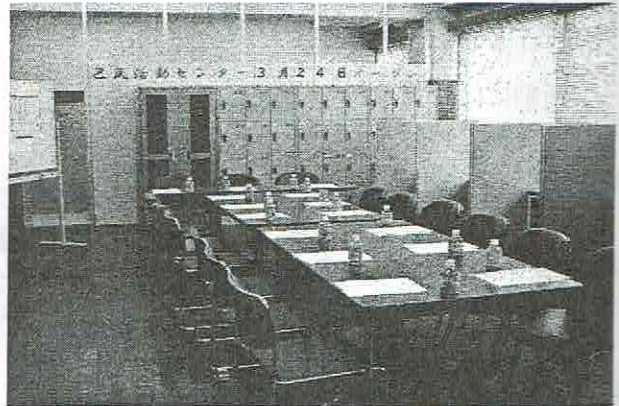
- ① さまざまな地域活動にあたる地域活動団体の基盤を強化し、充実した活動を行うことができるようにする。
- ② 地域で生活する人々の交流の場とすることで、身の回りの課題を話し合う機会を提供し、区民自身が地域生活上の課題の解決に向けた取り組みを行っていくことができるよう支援する。

そして、平成18年3月24日に豊島区北大塚にある東部区民事務所の中に『区民活動センター』が設置されたのです。

■ 中間支援のための拠点はなぜ必要か

・・・それではなぜ、中間支援のための拠点が必要なのでしょう？

市民にとっては、NPO活動に参加するために必要な情報が入手しにくい状況です。また、NPOにとっては、市民活動を広げたりメンバーのスキルアップを図ったりするための、機会や資源が不足している現状や、パートナーシップ構築のために各主体をコーディネートする役割を果たす存在がいなくて



いることがあります。さらに、行政にとっても、有する情報や資源が、必要としている主体に届いていない現状や、パートナーシップの相手を見つけ、事業を進めていくための機会や経験を増やす役割が必要です。

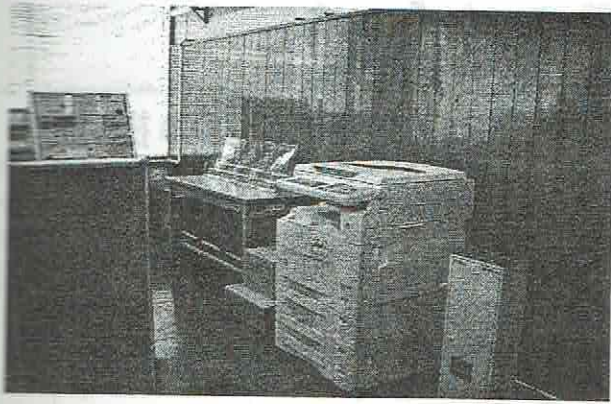
豊島区でNPOの現状について調査をした結果、以下のようなことがわかっています。

区民活動団体の現状

- (1) 身近な地域で活動している小規模の団体が多い。
- (2) 団体の事務所を持たず、個人宅を事務所（連絡先）として利用している例が多い。
- (3) 多くの団体が、主目的とする活動を行うだけでなく、社会に貢献したいという意欲を持ち、幅広く様々な活動に取り組んでいる。
- (4) 多くの団体が他団体や地域と連携・協力していきたいと考えている。
- (5) 行政に対しては、資金の助成や場所の提供、活動に関する機材・資材・教材などの提供、情報面での支援を求める声が高い。

（区民地域活動白書平成14年6月発行）

この『区民地域活動白書』に書かれている現状は豊島区に限ったことではなく、全国的に同じ状況といえるでしょう。やはり、活動を立ち上げるにも、立ち上げた後も場所の問題はかなり深刻です。区内で活動をしているにもかかわらず団体の代表者が区外在住のため支援を受けられないことや信頼性にかけるなどの声を聞くこともあります。そんな課題を解決するために場所を提供するという目的で拠点が必要なのです。



■コミュニケーションを促す

コーディネーターが大切

また、異なった目的のために活動を始めた市民団体同士が、活動する中で同じような問題や課題に気づき、実は活動内容が重なりあっていることに、偶然の出会いを通して気づくことがあります。そして、さまざまな団体がネットワークを形成し、日常的に交流を図ることは、それぞれの活動に広がりを持たせ、新しい活動へと発展していく可能性が期待されます。そうなるためには団体相互の交流やネットワークづくりを推進することが必要なのです。複数の団体が連携することにより、市民活動セクター全体を活性化していくことが期待されるという目的でも拠点が必要なのです。

つまり、拠点という場所では、場所として貸し出すことも必要ではありますが、それよりも団体同士や人同士がコミュニケーションをすることが大切で、拠点ばかりいくつも乱立させて、放置しておいては意味を成さないのです。ですから拠点にはコーディネーターをするスタッフをしっかりと配置し、情報収集や情報発信、団体同士が交流するための仕掛け作りをする必要もあります。そして何よりも大切なことが拠点を『気軽に立ち寄れる場所』にすることかとは私は思っています。入りやすい雰囲気にすることも大切でしょうし、そこ(拠点)に行けば必ず誰か



がいて相談やちょっとした世間話ができる・・・こういう小さなことが積み重なって大きくなっていき、市民活動の支援・交流・活動・情報等の総合拠点・ネットワークの中心となっていくのです。こうしたネットワーク化、コーディネイトの役割を通じて、



複数の活動主体がパートナーシップを組むことによる相乗効果が期待できるようになります。

■中間支援のあり方を考えよう

現在、全国各所にある同じような中間支援の拠点が悲しくも閉鎖しているという現状もあると聞きます。これからは『中間支援のあり方』そのものにも着目しながら拠点づくり、拠点運営をしていかなければならないと思います。日本における中間支援組織の発展も、最初はアメリカ型NPOのようにどこかのニーズを代行したり、フォローしたりというのが多く、結果的に様々な地域や社会の資源となっています。これからは、NPOのことだけではなく、コミュニティ全体の調和を考える役割へと方向転換をする必要があるのかもしれない。

豊島区市民活動センター

豊島区北大塚 10-5-10

JR大塚駅北口より徒歩5分

新たにグループで利用される場合は、事前に豊島区役所にお問い合わせください。

問合せ先:

豊島区役所区民部市民活動推進課地域振興係

TEL: 03-3981-0479

人をつなぎ地域を紡ぐ

—コミュニティを再生する重層的な人づくりシステムの提案

代表 森 良

都市型コミュニティの問題点は、古くからの地縁組織（町内会、自治会、育成会など）と新しく出てきたボランティアやNPOなどの市民個人や市民組織とのマッチングがうまくできていないことである。そこで、これを解決して地縁組織と市民組織と意思ある個人の融合・協力によって新たな自治的コミュニティをつくり出し、地域再生の基盤としていくことが求められている。そのためには、これらの人々や組織の間に入って地域課題を発見するサポートをしたり、意見を引き出したり、つないだりしていく役割の人々が育成され働くシステムが必要となる。それを提案してみたい。

■ケアが足りない！

少子高齢化が進み、都会では一人暮らしの若者と老人が増えている。認知症や精神障がい者、アルコール中毒者など介護やケアを必要とする人は増えているにもかかわらず、そのケアを供給するしくみはまだない。

一方前号の松戸市の企業の三角さんの発言「予防医学を実践できるリーダーを市民の中に育てていく」(ECOM06年1月号p.7)にあるように、そのために自分の持つ資源を提供したいという企業やNPOが登場し始めているものの、主に行政との間の「開かれた双方向のコミュニケーションの場がない」ためにそれが活かされていない。

無数のニーズを引き出して、それに応えていく人を育てていくために、コミュニティを再生する重層的な人づくりシステムが強く求められている。

■コミュニティ再生の課題

さらに詳しくコミュニティ再生の課題をあげてみよう。

1、コミュニティでのコミュニケーションの活性化
コミュニティとは地域での人のつながりのことである。しかし都会では、人々は分子化し孤立してバラバラになっていることが多い。出入り自由の縁側のようなサロンを設け、そこで出会った人々がコミュニケーションを深めていく。

また、そこから地域課題を解決するためのグループや協働事業がたちあがっていくきっかけとなる。

2、なにかやりたいと思っている人にきっかけが与えられる

地域活動や市民活動のまわりには、関心はありながらやってみたくらいと思っているものの、まだ活動していない人がたくさんいる。気軽に寄り合え、相談することができるサロンが中学校区に1つ以上あれば、

なにかやりたいと思っている人びとに日常的にきっかけを与えることができる。

3、地域課題解決のための協働事業やプロジェクトの産み出し

さまざまな立場の人びとがサロンに集まって雑談しているだけではなかなか事業にならないが、話を聴いてくれたり、引き出してくれたり、つないでくれたりする人が介在することによって確実に事業の形になっていく。また、事業実施の評価やフォローアップも容易になる。

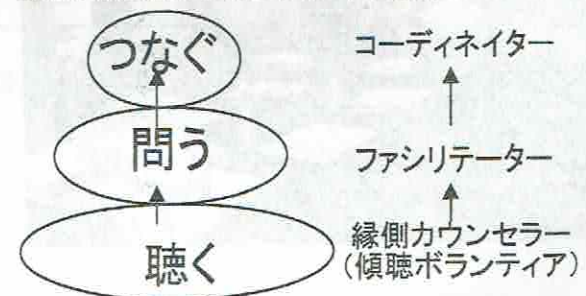
4、自治体の中での社会資源や人材についての情報交流・協働の活性化

コミュニティの中だけではなく、それら全体を見渡せるコーディネイターを育てることによって、一つの自治体の中でのまちづくりに有用な社会資源や人材についての情報がすみやかに交流され、コミュニティの枠をこえた資源・人材活用が活発になり、まちづくりが発展する。

5、新たな自治的コミュニティの創出

1～4の効果により、組織の壁をこえて、また個人も気軽にコミュニティでの活動に参画できるようになり、地縁組織、市民組織、意思ある個人の融合協力がはかられ、行政に依存しないコミュニティでの自立した問題解決やまちづくりがはかれるようになる。

■おそなえ型人づくりシステムの提案



〈おそなえ型人づくりシステム〉

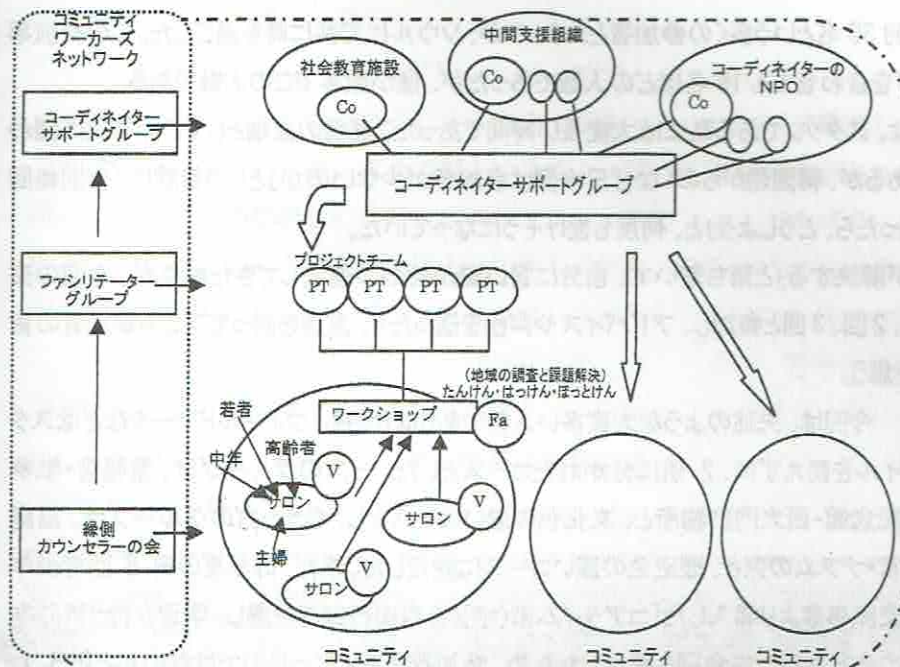
老若男女、障がい者、外国人など様々な立場の人が気軽に出入りできるサロンをつくり、縁側カウンセラーがその人たちから話を聴き出す。なにかやりたいことや解決したいことがある人は、地域課題解決のワークショップを開き、まちのお産婆さん（ファシリテーター）が皆の意見を引き出し形にしていく。ワークショップからたちあがったプロジェクトがNPO、企業、行政などと協働しながら自分たちの力で問題を解決していく活動を展開していく。そこにまちのお仲間さん（コーディネーター）が適切なアドバイスや提案、仲介を行っていく。こうした、共生のコミュニティづくりのためのつなぐ人づくりのシステムを形成することを提案したい。

お互いサポートしあったり、生きがいを感じあうことが重要なのである。

二層目は、一層目のサロンから生まれてきた「こんなことをやってみたい」「こんな問題をなんとかしたい」という地域ニーズを出し合い、解決していく場（ワークショップ）やそのためのフィールドワーク（まちたんけんなどの地域調査）をリードし、参加者から意見やアイデアを引き出していく「ファシリテーター」である。そこから地域解決のための小さなプロジェクトチームが生まれ自主的な活動が発展していくことになる。専門のNPOと協働しファシリテーターを養成していく講座からファシリテーターグループを生み出す。

三層目はコミュニティでのさまざまな活動にアドバイスし、地域課題を解決するのに必要な協働をコーディネートし人々をつないでいく「コーディネーター」である。これはなかなか困難な仕事であり、誰にでもできるというわけにはいかない。活動している人の中から適性を持っている人を発掘したり、「傾聴ボランティア」や「ファシリテーター」な中から向いている人を抜選してトレーニングしていく。

〈生み出される人材〉 〈活動する場と役割〉



※Co…コーディネーター Fa…ファシリテーター V…ボランティア(縁側カウンセラー) PT…プロジェクトチーム

図のような「つなぐ人づくりシステム」をつくり出すために、三層構造の人づくりのしくみをつくる。一層目はコミュニティにおける日常的な出入り自由のコミュニケーションの場としてのサロンを支える「縁側カウンセラー」である。社会福祉協議会や傾聴ボランティア、カウンセラーなどと協働して「傾聴ボランティア講座」や「気軽なコミュニケーション講座」を開き、それを修了した人々がローテーションでサロンをまわすしくみをつくる。

このサロンは、中心になる人さえいればどこでも開設できる(店舗、教室、個人宅、区役所出先機関、NPOや企業の事務所、施設など)。大切なことは話を聴いて反応してくれる「傾聴ボランティア」がいることである。そこに若者、中年、主婦、高齢者、障がい者、外国人などコミュニティのさまざまな立場の人が気軽に立ち寄り、話を聴いてもらったり、

■コミュニティワーカーのネットワークを

地縁コミュニティと目的コミュニティが融合協力して生活コミュニティをつくり出していくためには、上に述べたような自らのアジェンダ(議題、課題)を持たない新たなタイプのコミュニティワーカー

の一群が必要なのである。

これまでの市民活動は、テーマ別の目的達成のためにつつまるいわば目的コミュニティであった。目的コミュニティがその目的を達成するためには、狭い目的コミュニティから脱け出して全体を総合し、調整する役割が求められている。

縁側カウンセラー、ファシリテーター、コーディネーターにより、その市町村でのコミュニティワーカーネットワークをつくる。このネットワークで、その市町村でのコミュニティづくり、地域づくりのプロセスデザインを描き、相互の活動をサポートしあっていくとよい。

このような社会的実験をいくつかの地域で始めてみたい。

—「30名の力」は、アジアの未来の力になる—

あじあの芽 第7回アジア青少年交流事業

…事業を終えて感じたこと、色々。

あじあの芽 スタッフ 穂刈 洋



↑ 韓国伝統家具のミニチュアを作る参加者たち

2006年2月17日から22日の間、韓国ソウル市で行ったアジア青少年交流事業には、前々回(1年前)の交流事業には、以前と比べると、比較にならない

パワーがあった。これほど活気のある交流事業は、私自身初めてである。今回は、簡単にその様子をお伝えしたいと思う。

今回の交流事業には、日韓併せて約30名という多くの参加者とスタッフが、ソウルにて共に時を過ごした。この交流事業が始まったころは、参加者とスタッフを合わせても15名ほどの人数であったが、僅か数年でこの人数である。

しかし、この「僅か数年」という言葉は、スタッフである私には大変長い時間であった。運営の立場としてこの事業に関わっているのは、そのうち2年ほどではあるが、韓国側からの「なぜ日本側は参加者が少ないのか」という言葉に、毎回毎回頭を悩ませてきて、「ずっとこのままだったら、どうしよう」と、何度も挫けそうになっていた。

そんな状況になりながらも、「時間が解決する」と落ち着いて、自分に言い聞かせつつ運営してきた結果が、今回の交流会に返ってきたのではないと思う。2回、3回と参加し、アドバイスや声援を送ったり、友達を誘って下さる参加者の皆さんや、スタッフの皆には感謝したいと思う。



↑ 世界遺産・水原華城にて

今回は、先述のような大変多い人数でありながらも、フィールドワークなどはスタイルを変えずに、2班に分かれたコースとした。一方のグループは、景福宮・戦争記念館・西大門刑務所と、文化色の濃いコースとし、もう一方のグループは、昌慶宮・ナムムの家と、歴史色の濃いコースに設定した。また、昨年夏の第6回青少年交流事業より導入した「コアタイム制(学習と自由行動を分離し、学習を行う日のみの参加も可)」を今回も導入したため、参加者が多くなったのではないと思う。しかしこの人数だと、全員に指示が渡らないほどの賑やか

さど活気になる。何か全員の意見を聞きたい時に呼びかけをすれば、一人一人から異なった意見が飛び出してくる。人数が増えるのはうれしいことでも、それを受け入れられる体制がなくてはいけなくなる。難しいものである。

交流事業後の会議で、韓国側体制の立て直しのため、残念ながら今後しばらく交流事業を年1回の実施(次回は2007年2月 東京で実施)としていくことが決まったが、日本側でも、参加者とスタッフ、またスタッフ相互間での連携を強くするため、参加者と協力し、今後様々なフィールドワークや学習会を国内で行っていく予定である。興味のある方は、是非来ていただき、「アジアの未来の力」になって頂きたいと思う。

<p>あじあの芽 プロフィール 2004年4月発足 東アジアの青少年との交流事業の企画運営を基幹事業とするNGO。交流事業を通じたアジア諸国間の友好を築くことを目標としている。</p> <p>所在地：東京都豊島区池袋3-30-8 みらい館大明108 エコ・コミュニケーションセンター内</p> <p>ホームページ：新装のため準備中</p> <p>Eメール：the-bud-of-asia@email.goo.ne.jp</p>	<p>☆ イベント実施中 ☆</p> <p>月1回、語学や歴史の学習会やフィールドワークをはじめとした楽しいイベントを実施しています。</p> <p>どうぞお気軽にご参加下さい。</p>
---	---

コミュニティエンパワーメント～その18～ 話したいこと、誰かと 話せていますか？

ワークショップ工房・I's 主宰 ほんまようこ

木々の緑が、ほんとうに日に日に濃くなって朝に夕に見とれています。新緑の空気のなかで思いきり深呼吸してリフレッシュしましょうね。

さて、このコーナーも連載18回目を数え4年目になります。この間、一貫してメッセージしてきたことは「自立と共生」の「エンパワーメント」です。一人ひとりの、あるいはそれぞれの「自立」が初めて「共生」が可能になるのだということ。同時に、他者とのつながりの中で、気づいたり、引き出されたりしたその人本来の力によって自ら元気になっていくことが「エンパワーメント」だ、ということ。そして、そんな「一人ひとりの元気」が、地域や社会、そして地球の元気には不可欠だということ。そんなことを、私自身の仕事や活動や生活の場面をとおして、様々な切り口でお伝えしてきました。

昨年からは、地域のNPOと共に「中高生のしゃべり場」をやっています。毎回彼らが話したいことを中心に、時々、私たち大人が彼らに話してほしいことをテーマにして、ワークショップ工房・I'sのコンセプトである「感じる・深める・言葉にする」を展開しています。彼らの感想によく出てくることの一つに「普段話したことがないテーマで新鮮だった」というのがあります。彼ら自身が「話したいこと」としてあげているのに、普段友だちとは「話したことがない」のです。このことは、大人のワークショップでも同じです。みんな「話したいこと」があるのに、誰かと話せないでいるのです。

あなたは、話したいこと、誰かと話せていますか？今年度は、そんなあたりを「言葉」を切り口にしてメッセージしたいと思っています。よろしくね！

日程変更！

コーディネイトカアアップ全国研究セミナー 2006・6・17(土) & 18(日)

全国の「コーディネイター」が集い、話し合い、
日々の課題や壁を分かちあいながら、
必要な力を身につける…
実践型コーディネイトカアアップ全国研究セミナーを
開催します

対象：コーディネイターとして活動している、またはコーディネイターの仕事に関心がある方

場所：池袋 みらい館大明
東京都豊島区池袋 3-30-8

参加費：両日参加 8,000円 1日参加 5,000円

申込み締切：5月31日(水)

主催：コーディネイトカアアップ全国研究セミナー実行委員会
お問合せ・お申込み：

コーディネイトカアアップ全国研究セミナー事務局
(エコ・コミュニケーションセンター内)

～1日目～

セッションⅠ：

コーディネイトの現場での悩みや課題を出し合おう

セッションⅡ：

市民社会形成のビジョンを共有しよう

<基調講演>

①「市民自治体へ！コミュニティワークを実践しよう」

須田春海（市民運動全国センター）

②「希望のトライアングルを実現するコーディネイターとは」

森 良（エコ・コミュニケーションセンター）

グループ分け

交流会

～2日目～

セッションⅢ：

コミュニティワークの内容を明らかにしよう

セッションⅣ：

現場での実践をサポートしあおう

まとめの全体会

会費を大幅に見直しました

タテ社会からヨコ社会へ



はつなく人づくりに力をつくします

4月から新年度、
継続会費の振り込み
もお願いします

サポーター

購読会員
¥2,500/年

募集中！！

同じ地域や同じ課題で活動しているのに、お互いに連絡がなくバラバラなために、力も弱く、効率も悪く、目的が達成できていない、ということが多いと思いませんか。

ECOM は一つのテーマ・課題を追求する NPO ではなく、この問題を解決するために人をつないでいくことをしている NPO です。
<持続可能な社会をつくる> <アジアとともに生きる相互扶助的な市民社会をつくる> ためには、皆の意見を引き出し、合意形成を図っていく役割(ファシリテーター)やつないでいく役割(コーディネイター)が不可欠です。

ECOMの人づくりにあなたの支援を！ ニュースレター購読会員になってください！

お申込後会費の振込を下記銀行口座もしくは郵便口座のいずれかにお願いします。

<お振込先>

銀行口座：みずほ銀行 高田馬場支店 普通口座 8014051 (ト外) IJ・コミュニケーションセンター
郵便口座：口座番号 00160-8-611167 NPO 法人 IJ・コミュニケーションセンター

■お申込み NPO 法人エコ・コミュニケーションセンター

TEL: 03-5957-1301/FAX: 03-5957-1305/ E-Mail: ngo-ecom@gaea.ocn.ne.jp

1 月

- 10 兵庫県立大学経済経営研究所セミナー
- 13 JICA 内モンゴルプロジェクト打合せ
- 14 としま NPO 推進協議会役員会/ヤング 森塾 (YMJ)
- 15 いたばし環境ボランティア養成講座Ⅱ-②
- 16-17 ESD-J 地域 PT 合宿 (松山)
- 19 いたばし自然保全のいまと未来①
- 20 新宿区立落合第五小学校授業/
松戸市パートナーシップ条例策定委員会
- 21 いたばしボランティア・市民活動コーディネイトセミナー
- 22 いたばし環境ボランティア養成講座/
代々木公園樹木観察会
- 25 新宿エコリーダー講座/豊島区職員研修報告会
- 26 いたばし自然保全のいまと未来②
- 27 板橋区立志村小学校発表会見学/森塾 (MJ)
- 28-29 ファシリテーター養成講座
- 30 としま NPO 推進協議会役員会
- 31 酸性雨問題普及啓発委員会/さいたまグリーン・エコツーリズム協議会幹事会

2 月

- 1 ESD 日野地域ミーティング実行委員会
- 2 茨城エコカレッジ/いたばし自然保全のいまと未来③
- 4 調布 DeBanda①/ESD-J 全国コーディネイターミーティング/新宿「まちの先生見本市」
- 5 ESD-J 全国ミーティング
- 7 新宿区立東戸山小学校自然環境委員会
- 8 新宿エコリーダー講座

ECOM 活動日誌 (2006.1-3 月)

- 9 いたばし自然保全のいまと未来④
- 10 新宿区立落合第五小学校授業/埼玉県グリーン・ツーリズム事例研究会/としま NPO 推進協議会定例会
- 11 清瀬地域塾/調布 DeBanda②
- 12 いたばし環境ボランティア養成講座Ⅱ-③/
鶴瀬公民館「市民湧水ガイド講座」
- 14 江東エコリサイクルハウス研修会
- 15 新宿「まちの先生見本市」反省会
- 16 いたばし自然保全のいまと未来⑤
- 17-18 大阪府和泉市ファシリテーター養成講座
- 18 日暮里コミュニティ研究会
- 19 ESD 学習会(つくば JICA)/ESD-J トヨタ PT/ヤング 森塾 (YMJ)
- 20 エコライフ講座(エコキヤリ-新宿)/埼玉ツーリズム協議会設立総会
- 21-22 酸性雨問題普及啓発ワークショップ (新潟)
- 24 ESD-J 秋田地域ミーティング(横手)
- 25 柏崎環境ミーティング
- 26 環境まちづくりフォーラム埼玉(鴻巣)/日野地域ミーティング
- 28 あだちヤング ジョブセンター見学/調布 DeBanda③

3 月

- 2 清瀬地域塾
- 3 としま NPO 推進協議会役員会
- 4-5 NPO パワーアップセミナー(富山)

- 8 新宿区立落合第五小学校授業/ヤング 森塾 (YMJ)
- 12 いたばし環境ボランティア養成講座Ⅱ-④
- 17-19 旭川 ESD セミナー
- 18-19 ファシリテーター養成講座
- 20 エコライフ講座(エコキヤリ-新宿)
- 21 コミュニティビジネス講座(葛飾)/コーディネイトカアップ全国研究セミナー実行委員会(本八幡)
- 22 JICA 内モンゴルプロジェクト打合せ/豊島区民活動センター運営協議会設立総会
- 24 豊島区民活動センター開所式/森塾 (MJ)
- 25-26 現場で学ぶグリーンツーリズムのつくりかた in 比企丘陵(埼玉県東松山)
- 28 事務所移転
- 29-4/3 JICA 内モンゴル研修会①

NPO 法人
エコ・コミュニケーションセンター
〒171-0031 東京都豊島区池袋 3-30-8
みらい館 大明 108
TEL: 03-5957-1301 FAX: 03-5957-1305
E-mail: ngo-ecom@gaea.ocn.ne.jp
URL: http://www.12.ocn.ne.jp/~ecom
ニュースレター「ECOM」第 21 号
2006 年 4 月 28 日発行
発行人 森良
編集人 芦澤 弘子・穂刈 洋

困難と抱擁

若者の支援

助成金

。海外

。この場所

で、幸せになつてら

肝心の

当事者が

集まらばいい

既存の社会資源

自己完結しない

つながりあり

理念

各々の仕事(1-1)

1. ベンチャーの企画

聴きながら企画

ターゲットを絞る

社会に発信

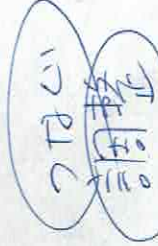
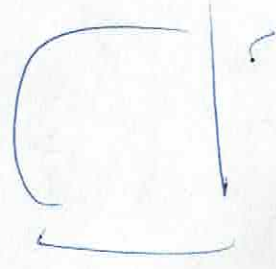
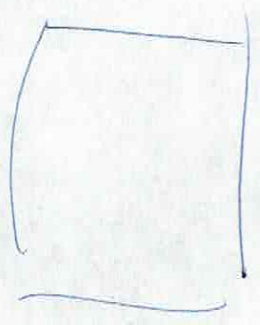
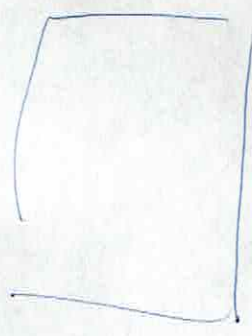
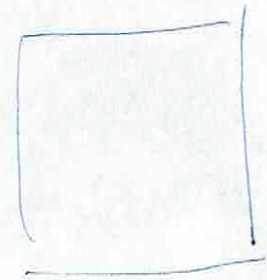
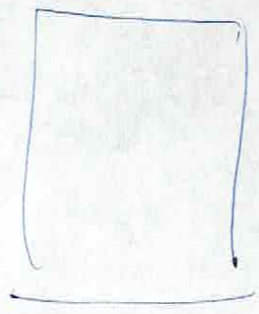
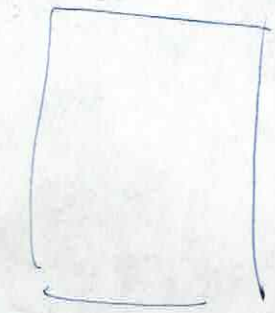
AMF

06.17.13

場所



会議名



傾向力、相手を考え互に諒解
聴く

身他聴法

内側の2-フェイス

外側の2-フェイス

第3者の2-フェイス

ネットワーク



時々 会合を持つ

ECOMは12年間、参加型の学習や
地域づくりのプロとして働いてきました。

いっしょにつくる 参加型コンサルティングの

ECOM

ECOMの財源は90%事業収入。
自立した運営で人を育てています。
(ボランティア・インターン/サポーター募集中)

～ 連絡先 ～

NPO 法人 エコ・コミュニケーションセンター

〒171-0014

東京都豊島区池袋3-30-8

みらい館大明108

TEL:03-5957-1301 FAX:03-5957-1305

E-mail:ngo-ecom@gaea.ocn.ne.jp

<http://www.18.ocn.ne.jp/~ecom>

ニュースレター購読会員

(サポーター)会費 2500円

(年6回ニュースレターを配布、

行事制あり)

〇〇市役所が

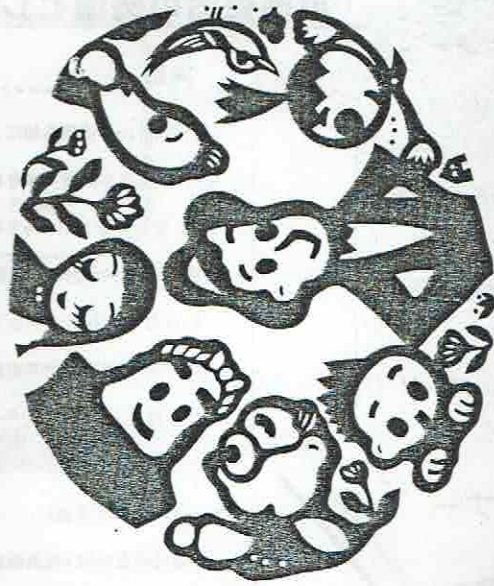
〇〇NPOが

〇〇会社が

〇〇小学校が

あなたが

地域が活きる



ECOM

このままの日本だと → 「希望格差社会」に

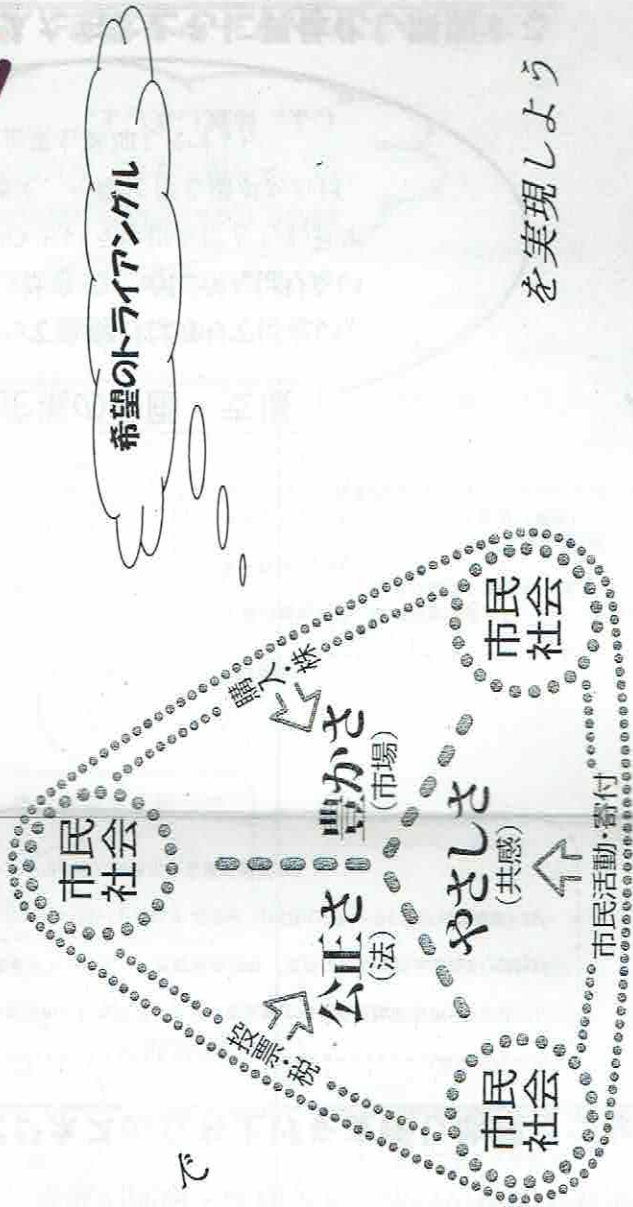
抱すけあう市民社会をともに！！

アジアと
共に進む

2009年
12月27日
14時

コミュニティ、

市町村（自治体）で



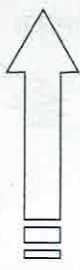
を実現しよう

須田春海 「市民自治体 社会発展の可能性」より

そのためには、**コーディネイター**が必要

ECOM はコーディネイターを育て、**コミュニティエンパワーメント**を促進します

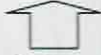
↑ (地域が自己決断の力をつけること)



<コミュニティビジネス>

- ・地域の特性を生かした新しい地域社会づくり
- ・商店街・まちの活性化
- ・顔の見える地域社会の再生
- ・地域からの雇用創出
- ・生きがいづくり etc.

コミュニティビジネス



市民が主体となり、地域の問題・課題をビジネスの視点で解決

コミュニティビジネスの立ち上げを支援し地域とつなげる

実績

- 豊かな自然や地域資源を活かした地域プログラムを実施する住民主体のNPOづくり (山梨県遊佐町「島海自然ネットワーク」/長野県高遠町「自然学校ふる里あったかとお」)
- ・シニアや地域活動をしたい人の思いを形にする講座「DEBANDA」(千葉県松戸市まつど市民活動サポートセンター'04'05/調布市社会福祉協議会)

実績

- ・企業の環境教育、環境経営推進のためのファシリテーター研修 (NEC)
- ・ステイクホルダーミーティング参画 (東芝)

企業の参画・支援

企業だって金儲けばかりではない。
 よりよい社会のためにがんばりたい
 企業、NPO という枠組みにとらわれず、
 一緒に考え、一緒に作る場があれば、
 企業も参加しやすい。

CSRを地域の人たちとともに具体化し展開する

<企業の社会貢献 (CSR) >

協働事業

- ①語り・悩み相談からとプロセスを明確
- ②NPOの思い=企業らない/協働のため
- ③夢相手のニーズととプレゼンを意識
- ④実践でパートナーンテーションの実

NPO パワー

つな
人こ

コミュニティ

ファシリテーター: 1
 や知恵、気づきを引き
 を促進する。社会のお
 コーディネーター: 地
 人を台頭にしてつなぐ
 し、出会わせ、通訳を
 て調整してゆく。社会

ファシリテーター
 コーディネーター
 ヤング森塾

「市民自治の機構としての自治体」へ、参加と協働を

協働事業の展開

- ①語り・悩み相談から始めよう/ミッションとプロセスを明確にする
- ②NPOの思い=企業・行政のニーズとは限らない/協働のためのマーケティング
- ③夢相手のニーズとハートをつかむ/協働とプレゼンを意識した企画書作り
- ④実践でパートナーを見つけよう/プレゼンテーションの実践とマッチング

NPO パワーアップセミナー

つなぐ
人づくり

コミュニティワーカーの養成

ファシリテーター：1人ひと●●持っている経験や知恵、気づきを引き出し、市民参加のプロセスを促進する。社会のお産婆さん。

コーディネーター：地域社会の中の異なる立場の人を台座にしてつなぐ役割。お互いの特徴を理解し、出会わせ、通訳をし、社会のビジョンに沿って調整してゆく。社会のお仲人さん。

ファシリテーター養成講座
コーディネーター養成森塾
ヤング森塾

実績

- ・自治体計画の市民参加による策定（「環境基本計画」鎌倉市、志木市、愛知県春日市、埼玉県鶴ヶ島市、「基本構想計画」板橋区）
- ・松戸市パートナーシップ条例（H16 内閣府委託調査市民活動モデル調査ワーキングチームアドバイザー/松戸市パートナーシップ条例策定委員）
- ・各種職員研修・教員研修の企画・講師派遣（東京都稲城市、狛江市、小中学校の構内研究教材開発など）

実績

- ・中間支援組織の組織立ち上げ支援（板橋総合ボランティア市民活動センター、としまNPO推進協議会）
- ・ボランティア講座（豊島区、荒川区、板橋区、埼玉社協、東京ボランティア市民活動センター）
- ・総合学習支援のしくみづくり

<ビジョン>

- ・持続可能な地域
- ・相互扶助的な市民
- ・東アジア共同体

<ゴール>

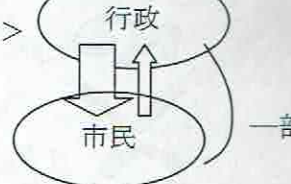
真の意味での
自治体
行政×市民

<協働期>

パートナーシップ計画
/パートナーシップ
☆行政と市民が協働してつくり、

コミュニ
ティ自治

<現状>



☆行政と市民の関係は上下関係
ウンが大きく、ボトムアップが
的な協働にとどまっている。

自分たちのことは自分たちで決めたい、そう思うなら、みんなで学びましょ。体験しましょ。

ボランティアとNPOのネットワークを築き、市民の力

< ボランティア

< 自治体 >

「市民自治の機構としての自治体」へ、参加と協働を育てる

実績

- ・自治体計画の市民参加による策定（「環境基本計画」鎌倉市、志木市、愛知県春日市、埼玉県鶴ヶ島市、「基本構想計画」板橋区）
- ・松戸市パートナーシップ条例（H16 内閣府委託調査市民活動モデル調査ワーキングチームアドバイザー／松戸市パートナーシップ条例策定委員）
- ・各種職員研修・教員研修の企画・講師派遣（東京都稲城市、狛江市、小中学校の構内研究教材開発など）

実績

- ・中間支援組織の組織立ち上げ支援（板橋総合ボランティア市民活動センター、としまNPO推進協議会）
- ・ボランティア講座（豊島区、荒川区、板橋区、埼玉社協、東京ボランティア市民活動センター）
- ・総合学習支援のしくみづくり

<ビジョン>

- ・持続可能な地域と地球
- ・相互扶助的な市民社会
- ・東アジア共同体

<ゴール>

真の意味での
自治体
行政×市民

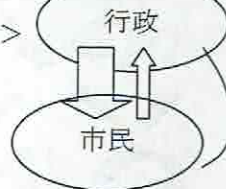
<協働期>

パートナーシップ計画
／パートナーシップ組織
☆行政と市民が協働してつくり、推進する

コミュニ
ティ自治

コミュニ
ティ自治

<現状>



一部分的な協働

☆行政と市民の関係は上下関係で、トップダウンが大きく、ボトムアップが小さい。部分的な協働にとどまっている。

自分たちのことは自分たちで決めたい、そう思うなら、みんなで学びましょ。体験しましょ。

< ボランティア >

ボランティアとNPOのネットワークを築き、市民の力を高める

アジアと共に歩む

このままの日本だと...希望格差社会に

たすけあう市民社会をせむに！！

コミュニティ、

市民社会

希望のボランティア

90% や、2...? 毎日の動き